

# CEFR-J Wordlist との比較による 英語コロケーション辞典の見出し語分析

An Analysis of the Headwords in English Collocations Dictionaries through a Comparison with the CEFR-J Wordlist

成城大学社会イノベーション学部教授  
石井 康毅 ISHII, Yasutake

## 1. 背景と目的

一般に、どのような語であっても特定の他の語と共起する傾向が強いというコロケーションの重要性が、言語学のみならず、言語教育の分野でも広く認識されるようになって久しい (Granger, 1998; Howarth, 1998; Ellis, 2003; Nesselhauf, 2005; 堀, 2009; Chen and Baker, 2010)。たとえ単語のレベルで多くの語彙項目を知っていたとしても、フレーズレベルの語彙知識がなければ、円滑なコミュニケーションを実現するために不可欠な、統語的にも意味的にも語用論的にも適格な文を作って発信することは容易でないからである。フレーズレベルの語彙知識の中で重要なものの一つがコロケーションである (川村・石井, 2013, pp. 45-47)。

「コロケーション」(collocation)の定義については様々なものがある (Fontenelle, 1998, pp. 191-192; 堀, 2009, pp. 4-9)が、本研究では、「語と語の間における、語彙、意味、文法等に関する習慣的な共起関係」(堀, 2009, p. 7)をコロケーションの定義とする。ある語とコロケーションの関係を構成する語は「連語(構成語)」(collocate または collocator)と呼ばれるが、後述のコロケーション辞典の一つである *Longman Collocations*

*Dictionary and Thesaurus* は、連語の関係も、連語を構成する語も区別することなく、どちらも collocation と呼んでいる。また、日本語でも「コロケーション」・「連語」の両方をどちらの意味でも用いることが多いことを踏まえ、本稿では以下、連語構成語も「コロケーション」と呼ぶ。

英語教育の分野でコロケーションの重要性に対する認識が高まるにつれて、学習者向けのコロケーション辞典が増えてきた。中規模の学習者向けコロケーション辞典としては、英英コロケーション辞典の編集・発行が先行していたが、近年、日本人英語学習者向けの英和コロケーション辞典も編集・発行されている。本研究で調査対象とした英和コロケーション辞典 (2.1 参照) は 2012 年と 2015 年に発行されたものであり、この発行年は日本の英語教育においてコロケーションの重要性の認識が近年急速に高まっているということの裏付けであるとも言える。

このような背景のもと、本研究は、現在の英英コロケーション辞典と英和コロケーション辞典が日本人英語学習者のニーズに的確に応えられているかを検証することを目的とする。どのような見出し語がコロケーション辞典に必要なのか検討するために、英英コロケーション辞典と英和コロケーション辞典を比較しながら、CEFR-J Wordlist (2.2 参照) を基準として、日本人英語

学習者の利用を考えた時にコロケーション辞典の扱いが手薄である見出し語・情報を明らかにすることを旨とする。

以下、2節でコロケーション辞典の見出し語調査の方法について述べ、3節でコロケーション辞典の見出し語の分析を行い、4節で結論と今後の課題を述べる。

## 2. コロケーション辞典の見出し語調査の方法

本節では、2.1で本研究において分析対象とするコロケーション辞典を挙げ、その見出し語データの取得方法と本研究で利用するために施したデータの修正について述べ、2.2でCEFR-J Wordlistの概要と本研究で利用するために施したデータの修正について述べる。

### 2.1. 分析対象のコロケーション辞典と見出し語の取得方法

本研究では、以下の3点の中上級英語学習者向

け英英コロケーション辞典と、2点の英和コロケーション辞典を分析対象とした。書籍版の判型・ページ数から、いわゆる「辞書」と「単行本」の中間的な体裁である『プログレッシブ 英語コロケーション辞典』を除く4点はいわゆる中辞典クラスであると言える。

- ・ *Oxford Collocations Dictionary for Students of English*, Second Edition (2009) (以降「OCD2」と略記する)
- ・ *Macmillan Collocations Dictionary* (2010) (以降「MCD」と略記する)
- ・ *Longman Collocations Dictionary and Thesaurus* (2013) (以降「LCD」と略記する)
- ・ 『プログレッシブ 英語コロケーション辞典』 (2012) (以降「『プログレ』」と略記する)
- ・ 『小学館 オックスフォード 英語コロケーション辞典』 (2015) (以降「『オックスフォード』」と略記する)

OCD2とLCDは電子版のみに収録される項目もあるが、今回の分析では、それらも各辞書の収録項目として扱った。

表 1

5点のコロケーション辞典の主要な品詞ごとの見出し語数・割合と総見出し語数

	OCD2	MCD	LCD	オックスフォード	プログレ
名詞	5,443 (64.7%)	2,406 (55.9%)	2,483 (65.0%)	1,657 (68.0%)	1,154 (61.0%)
形容詞	1,486 (17.7%)	997 (23.2%)	680 (17.8%)	351 (14.4%)	303 (16.0%)
動詞	1,489 (17.7%)	902 <sup>a</sup> (21.0%)	573 (15.0%)	428 (17.6%)	436 (23.0%)
合計	8,418	4,305	3,819 <sup>b</sup>	2,436	1,893
うち電子版のみ収録の項目	356	—	586	—	—
公称見出し語数 <sup>c</sup>	9,000	over 4,500	—	約 2,500	約 2,500

注 複数の品詞が併記されている場合には、最初のを集計対象とした。例えば OCD2 では品詞表記が “adj”・“adj, adv”・“adj, n”・“adj, pron” の項目をまとめて形容詞として扱った。

<sup>a</sup> MCD の動詞には句動詞項目が含まれる。

<sup>b</sup> LCD の合計には副詞 49 項目とその他 34 項目が含まれる。

<sup>c</sup> OCD2 は “Collocations for 9,000 nouns, verbs and adjectives” (背表紙) と謳っている。MCD は “Focus on students’ productive needs, with collocations for over 4,500 carefully-selected key words” (背表紙) と謳っている。LCD は収録見出し語数に関して言及していない。『オックスフォード』には、見出し語について「約 2,500 語の名詞・形容詞・動詞・副詞を選び、アルファベット順に配列しました。」(p. vi) とある。(ただし副詞については単独の見出し語はなく、形容詞と副詞の併記された見出し語が 6 項目あるのみである。)『プログレ』では、「見出し語の選定にあたっては、... コロケーションの観点から重要な約 2500 語を選定し、...」(まえがき)と「名詞・形容詞・動詞から選んだ基本語約 2,500 語を収録し、アルファベット順に配列した。」(この辞典の使い方)とある。

大規模かつ有用な英和コロケーション辞典として、『新編 英和活用大辞典』(1995)もあるが、これは判型からも書名からもいわゆる大辞典クラスに分類でき、見出し語数も上記の辞書と比べてだいぶ多く(およそ16,000項目)、想定される利用者層も上記のコロケーション辞典とは異なるため、本研究では分析の対象外とした。

『オックスフォード』はOCD2の一部項目を英和辞典化したものであり、純粋に独立した英和コロケーション辞典ではないが、中上級の日本人英語学習者にとって使いやすい数少ない英和コロケーション辞典であるため、本研究では英英辞典を英和辞典化したという事実には留意しながらも、一つの独立したコロケーション辞典として扱う。

各辞書の品詞ごとの見出し語数をまとめたのが表1である。なお、いずれの辞書も、単一の語で品詞が異なる項目はそれぞれを別見出しとして扱っている。

見出し語の調査に当たっては、上記5点のコロケーション辞典が収録する、空見出しを除く全ての見出し語とその品詞のリストを作成した。辞書によって見出し語の綴りがアメリカ式とイギリス

式で異なっている場合や、複数の見出し語形が併記されている場合には、辞書間で整合するように、原則として代表的な、あるいはアメリカ式の綴りに統一した。例えば、“analyze”はOCD2では“analyse (*BrE*) (*AmE* analyze)”, MCDでは“analyze”, LCDでは“analyse *BrE*, analyze *AmE*”として見出しが立てられているが、以下の集計作業では、これらは全て“analyze”として扱った。品詞についても、辞書によって表記が異なっていたり、複数併記がされているものがあったりするが、辞書間で整合するように、基本的には最も包括的なものに統一した。例えば、“alone”はOCD2では“adj.”, LCD(電子版のみ)では“adjective, adverb”, 『オックスフォード』では“形”, 『プログレ』では“形”として見出しが立てられているが、OCD2の用例には“These islands are too small to stand alone as independent states.”や“Don’t touch me! Leave me alone!”のように、辞書によって形容詞と分類するか副詞と分類するかが分かれるような用法が含まれることから、上記4書のいずれも形容詞と副詞の両方の品詞でaloneを収録しているものとし

表2

コロケーション辞典の全見出し語(品詞別)の辞書ごとの収録状況(全データの一部)

見出し語	品詞	OCD2	MCD	LCD	オックスフォード	プログレ
abandon	動詞	✓	✓	✓	✓	✓
abashed	形容詞	✓				
abbreviation	名詞	✓		✓		
abhorrent	形容詞	✓				
ability	名詞	✓	✓	✓	✓	✓
ablaze	形容詞	✓				
able	形容詞	✓			✓	✓
abnormal	形容詞		✓	✓		
abode	名詞	✓				
abolish	動詞	✓	✓			
abortion	名詞	✓	✓	✓		

注「✓」は当該見出し語が当該辞書において収録されていることを示す。

て扱った（この種の修正は2.2で述べるCEFR-J Wordlistとの照合に影響を及ぼすものであるが、上記の表1はこの種の修正作業をする前のデータに基づいている）。

以上の作業により、全ての見出し語のコロケーション辞典ごとの収録状況をまとめたデータの一部が表2である。

## 2.2. CEFR-J Wordlist

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment; 「外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠」) は、ヨーロッパでの1970年代からの研究・実践に基づいて、外国語能力を示す汎用の枠組みとして2001年に公開されたものであり (Council of Europe, 2001), 世界的に利用が進んでいる。CEFRは言語を使って何ができるのかという観点で、言語能力をA1 (初級) ~ C2 (上級) の6レベルで規定する。例えばB1レベルは「仕事・学校・娯楽などの場面で普段出会うような身近な話題について、はっきり標準的な話し方・書き方をされれば要点を理解できる。」(レベル概要の一部) と規定される。

日本の英語教育政策においては、2011年に文部科学省が「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」(文部科学省 外国語能力の向上に関する検討会, 2011) によってCAN-DO (「~ができる」) 形式での学習到達目標の作成を各中学校・高等学校に求めたが、このCAN-DOはCEFRの枠組みの柱である。CAN-DOの考え方は中等教育の段階ではかなり浸透してきたが、それにとどまらず、中学校で2021年度から、高等学校で2022年度から全面実施される新しい学習指導要領において、CEFRの考え方が大きく取り入れられている。『中学校学習指導要領解説 外国語編』(文部科学省, 2017, p. 8) では外国語科の目標について、「... 国際的な基準であるCEFRを参考に、『聞くこと』、『読むこと』、『話すこと [やり取り]』、『話すこと [発表]』、『書くこと』の五つの領域で英語の目標を設定している。その目標を実現するために行う後述の言語活動につい

ても、CEFRを参照しながらその内容を設定している。」(原文に含まれる注釈は筆者が省略) とされており、高等学校の新学習指導要領解説でもほぼ同じ文言が見られる (文部科学省, 2018, p. 144)。現在、CEFRを日本の英語教育環境に適用したCEFR-J (投野, 2013) の開発が進行中であり、CEFRの考え方や手法が今後日本の英語教育においてさらに広範囲で利用されると見込まれている。

そこで、本研究では、コロケーション辞典の見出し語が日本人英語学習者にとって十分に有用なものとなっているかを確認するための基準として、CEFR-Jの一部を構成する語彙リストの『CEFR-J Wordlist Version 1.3』(東京外国語大学投野由紀夫研究室, 2016) (以降「CEFR-J Wordlist」と略記する) を利用する。CEFR-J Wordlistは主に、見出し語・品詞・CEFRレベル (A1からB2まで) の情報から成る。見出し語が併記されている項目や、アメリカ式とイギリス式の綴りが併記されている項目、重複と思われる項目なども含まれているため、筆者が全ての項目を目視で確認し、2.1で述べたコロケーション辞典のデータと整合するように修正した。例えば、“email/ e-mail/ E-mail”の見出し語を“email”のみにしたり、“color/ colour”の見出し語を“color”のみにしたり、別項目として挙げられている“Internet/ internet”の見出し語と“the Internet”の見出し語を“Internet”のみにするなどの修正を施した。筆者による修正を反映した、CEFRレベルと主要な品詞別の項目数を表3に示す。

CEFR-J Wordlistの全収録項目のデータに、2.1で述べたコロケーション辞典における各語・品詞の見出し語としての収録状況の情報を加えたデータの一部を表4に示す。

## 3. コロケーション辞典の見出し語の分析

本節では、3.1で中上級の英語学習者が利用可能なコロケーション辞典と考えられる英英と英和を合わせた5点のコロケーション辞典の見出し語の特徴を、CEFR-J Wordlistを基準として分析し、

表 3

CEFR-J Wordlist 収録項目の品詞別項目数と各レベル中での割合（主な品詞と合計のみ）

CEFR レベル	名詞	形容詞	動詞	副詞	合計
A1	631 (54.2%)	148 (12.7%)	134 (11.5%)	75 (6.4%)	1,164
A2	776 (54.8%)	243 (17.2%)	205 (14.5%)	122 (8.6%)	1,415
B1	1,267 (51.7%)	514 (21.0%)	464 (18.9%)	159 (6.5%)	2,449
B2	1,425 (51.2%)	590 (21.2%)	547 (19.7%)	197 (7.1%)	2,782
全レベル	4,099 (52.5%)	1,495 (19.1%)	1,350 (17.3%)	553 (7.1%)	7,810

注 ここでの「動詞」は primary verbs と呼ばれる be・do・have を除いた一般動詞を指す。割合が小さいために表内で省略した他の品詞は、be 動詞, do 動詞, have 動詞, 間投詞, 決定詞, 数詞, 接続詞, 前置詞, 代名詞, 不定詞標識の to, 法助動詞である。

表 4

CEFR-J Wordlist 収録項目の辞書種別ごとの収録状況（全データの一部）

見出し語	品詞	CEFR レベル	英英収録辞書数	英和収録辞書数	合計収録辞書数
a	決定詞	A1	0	0	0
a.m.	副詞	A1	0	0	0
abandon	動詞	B1	3	2	5
abandoned	形容詞	B2	0	0	0
ability	名詞	A2	3	2	5
able	形容詞	B1	1	2	3
abnormal	形容詞	B1	2	0	2
abnormally	副詞	B2	0	0	0
aboard	副詞	B1	0	0	0
abolish	動詞	B2	2	0	2

3.2 で特に日本人英語学習者にとって利用しやすい 2 点の英和コロケーション辞典の見出し語の特徴を、同じく CEFR-J Wordlist を基準として分析する。

### 3.1. 英英と英和を合わせた 5 点のコロケーション辞典の見出し語

#### 3.1.1. 見出し語数の観点からの概要

CEFR-J Wordlist に含まれる全項目の、コロケーション辞典 5 点における見出し語としての収録数を CEFR レベル別にまとめたのが表 5 である。

レベルが低い基本語ほど、多くのコロケーション辞典で見出し語として収録されていることが多いという傾向が認められ、概してコロケーション辞典は基本語の多くをカバーしているということが言えそうである。しかしその一方で、レベルの低い基本語であっても見出し語として収録するコロケーション辞典の数が少ないものも多くある。例えば CEFR-J Wordlist で A1 レベルとして収録されている項目のうち、5 点のコロケーション辞典に全く収録されていない、あるいは 1 点のみにしか収録されていない項目は、34.3% を占めていて、重要な基本語でありながら、コロケーション

表 5

CEFR-J Wordlist 収録項目の英英・英和コロケーション辞典におけるレベル別収録数と割合

CEFR レベル	0	1	2	3	4	5	合計
A1	278 (23.9%)	121 (10.4%)	74 (6.4%)	99 (8.5%)	253 (21.7%)	339 (29.1%)	1,164
A2	352 (24.9%)	214 (15.1%)	134 (9.5%)	158 (11.2%)	204 (14.4%)	353 (24.9%)	1,415
B1	684 (27.9%)	437 (17.8%)	353 (14.4%)	309 (12.6%)	304 (12.4%)	362 (14.8%)	2,449
B2	1,197 (43.0%)	587 (21.1%)	453 (16.3%)	290 (10.4%)	162 (5.8%)	93 (3.3%)	2,782
全レベル	2,511 (32.2%)	1,359 (17.4%)	1,014 (13.0%)	856 (11.0%)	923 (11.8%)	1,147 (14.7%)	7,810

表 6

CEFR-J Wordlist A1 レベル収録項目の英英・英和コロケーション辞典における主要な品詞別収録数

品詞	0	1	2	3	4	5	合計
名詞	56	54	51	67	171	232	631
形容詞	16	11	13	14	38	56	148
動詞	3	14	10	16	40	51	134

辞典での扱いが不十分である項目が多い可能性がある。また、Bレベルになると、見出し語として収録するコロケーション辞典の数が少なくなり、やや抽象度の高い語を使って発信しようとする場面では、コロケーションを調べたい語がコロケーション辞典に見出し語として収録されていないという状況が多くなりそうである。

続いて、特に基本的で重要な語彙である A1 レベルの語のコロケーション辞典における見出し語としての収録状況を、品詞別に見てみる。A1 レベルの名詞・形容詞・動詞の項目が、何点のコロケーション辞典で見出し語として収録されているかをまとめたのが表 6 である。

A1 レベルの名詞では、5 点全てのコロケーション辞典で見出し語として収録されている項目はおよそ 3 分の 1 に過ぎない。以下、見出し語として収録する辞書数が少ない項目を詳細に見ることで、学習者の観点で十分な情報がコロケーション辞典

で提供されているかということを検討していく。

### 3.1.2. 名詞

はじめに、A1 レベルの名詞でコロケーション辞典での収録が全くない項目を見る。この条件に合致する項目は 56 項目あり、次に挙げるのがその全てである。

April, apron, August, bear, bookstore, burger, bye, CD player, classmate, classroom, cop, dad, daddy, December, February, feed, foreigner, Friday, grandma, grandpa, hamburger, hometown, January, July, June, last name, lily, living room, May, Miss, mobile, mom, mommy, Monday, Mr, Mrs, November, October, olympic, prince, princess, Saturday, saw, September, sir, smith, swimming, swimming pool, throw, Thursday, Tuesday, TV, underline, volleyball, wake, Wednesday

月名 (April, August, December, February, January, July, June, May, November, October, September)<sup>1)</sup> と曜日名 (Friday, Monday, Saturday, Thursday, Tuesday, Wednesday)<sup>2)</sup> のほとんどが含まれている。OCD2と『プログレ』では全ての曜日名・月名の空見出しがあり、それぞれ day の見出しの下の“NOTE (Days of the week)”と month の見出しの下の“NOTE (Months)”への参照があり<sup>3)</sup>、そこで曜日・月に関するコロケーションがまとめて提示されている。これらの語は学習者が発信時に使いたい場面が多いと考えられ、OCD2と『プログレ』の扱いは学習者にとって望ましいものであると言える。

上記のリストに挙がっている親族名称 (dad, daddy, grandma, grandpa, mom, mommy) はインフォーマルな形であり、より一般的な father や grandfather などの項目はコロケーション辞典に収録されているものが多い。例えば father と mother は MCD を除く 4 点で、grandfather は OCD2 の 1 点で grandfather, grandmother という併記見出しの形で収録されている<sup>4)</sup>。

TV を収録するコロケーション辞典はないが、television は 5 点全てで収録されている。他に、学習者が発信時にコロケーションを知りたいと思う場面があると考えられる項目としては、bookstore, CD player, classmate, classroom, hometown などが挙げられるが、いずれも複合語を構成する語 (store, player, room, town) や類義語 (friend) で事足りそうである。

2020 年の東京オリンピックを控えた現在、日本人英語学習者が話題にしたい場面が多いと考えられる語として、foreigner と olympic<sup>5)</sup> が挙げられる。ただし、foreigner はよそよそしさを感じさせる語であり、tourist や people from other countries などでの言い換えをした方がよい場面が多いと考えられるが、そこまでの情報となるとコロケーション辞典で扱う情報の範疇を超えているとも言え、コロケーション辞典で foreigner のような語をどのように扱えば学習者の発信を支

援できるのかということは、今後検討の余地がある。olympic については、日本人英語学習者のニーズに既存のコロケーション辞典が応えられていない例と言える<sup>6)</sup>。

cop, feed, lily, saw, sir, smith, throw, wake などは A1 レベルの名詞として CEFR-J Wordlist に収録されているが、これは CEFR-J Wordlist の作成過程に起因するものであり、これらの語は必ずしも日本人英語学習者にとって重要な基本語であるとは言えないと思われる。

次に、A1 レベルの名詞でコロケーション辞典での収録が 1 点のみである 54 項目を次に挙げる。

airplane, aunt, bat, bean, biscuit, bucket, butterfly, cafe, coke, cookie, corn, couch, dancing, dig, dining room, dollar, drum, fairy, grandfather, grandmother, guitar, hello, interviewer, kite, math, mobile phone, monkey, mum, notebook, pair, pig, pizza, rabbit, rat, ribbon, rose, ruler, sailor, shake, sofa, Sunday, surf, swim, tiger, today, tomorrow, T-shirt, turkey, uncle, vase, waiter, waitress, yogurt, zoo

紙幅の都合もあるため詳細に見ることはしないが、日常的に使用しそうな語でかつ学習者がコロケーションを調べる場面が想像しやすいものが多く、コロケーション辞典における基本語の扱いには改善の余地があると言えるであろう。

### 3.1.3. 形容詞

続いて形容詞に目を向ける。A1 レベルの形容詞でコロケーション辞典での収録が全くないのは次の 16 項目である。

all right, dear, everyday, foggy, following, gold, left, living, merry, middle, off, only, own, second, snowy, super

A1 レベルの形容詞でコロケーション辞典での収録が 1 点のみであるのは次の 11 項目である。

cute, due, elementary, favorite, first, front, great, little, orange, rainy, well

上に挙がっている形容詞に関しては、基本語で日常的に使うものが多いが、コロケーションの情報が必要かという観点で見ると、あまり該当しな

いと言えそうであり、形容詞の基本語に関しては、既存のコロケーション辞典の見出し語にはさほど大きな問題はなさそうである。

### 3.1.4. 動詞

次に動詞に目を向ける。A1 レベルの動詞でコロケーション辞典での収録が全くないのは次の3項目である。

come, let, ring

A1 レベルの動詞でコロケーション辞典での収録が1点のみであるのは次の14項目である。

become, build, carry, catch, celebrate, collect, color, dance, get, give, make, mean, paint, phone

形容詞の場合と同様に、基本的で日常的に使う語が多いが、特定のコロケーションと結びつくことが多いというよりは、具体的な意味内容を持つ様々な様態の副詞と結びつく可能性があるものが多く、必ずしもコロケーション辞典で扱う必要性が高いとは言えない項目がほとんどである。これらの語については、英和辞典でフレーズを含む使い方を知り、必要に応じて和英辞典で様態の副詞を調べるといった方が実際の学習者のニーズに近いのではないと思われる。

### 3.1.5. まとめ

CEFR-J Wordlist のA1 レベルの項目には be・do・have の各種屈折形や、接続詞・前置詞・代名詞等の機能語も多く含まれ、主に内容語を扱うコロケーション辞典とは扱う範囲が異なるという性質の違いは意識する必要があるものの、概して基本語の扱いには改善の余地があると言えそうである。具体的な項目を検討した結果、特に名詞に

関しては、基本語の扱いが手薄であるということが言えそうである。

## 3.2.2 点の英和コロケーション辞典の見出し語

### 3.2.1. 見出し語数の観点からの概要

CEFR-J Wordlist に含まれる全項目の、英和コロケーション辞典2点における見出し語としての収録数を CEFR レベル別にまとめたのが表7である。

表1に示したように、英和コロケーション辞典の収録項目数は英英コロケーション辞典と比べて少ないこともあり、表5のデータと比べても、英和コロケーション辞典での扱いが全くない語が多いということが分かる。また、英和コロケーション辞典の収録見出し語数は多くないものの、その収録する見出し語はBレベル、特にB1レベルのものが最も多く(1点以上の英和コロケーション辞典が見出し語として収録する項目語は、A1が713項目、A2が711項目、B1が893項目、B2が372項目)、英和コロケーション辞典の見出し語は必ずしも基本語に限定されているとは限らないということが分かる<sup>7)</sup>。

CEFR-J Wordlist でA1レベルとして収録されている項目のうちの45.7%が2点の英和コロケーション辞典の両方で収録されている一方で、38.8%の項目はいずれの英和コロケーション辞典でも収録されておらず、3.1で述べた英英を含む5点のコロケーション辞典での分析結果と同様に、重要な基本語でありながら、英和コロケーション辞典での扱いが不十分である項目が多い可能性がある。

表7

CEFR-J Wordlist 収録項目の英和コロケーション辞典におけるレベル別収録数と割合

CEFR レベル	0	1	2	合計
A1	452 (38.8%)	180 (15.5%)	532 (45.7%)	1,164
A2	704 (49.8%)	248 (17.5%)	463 (32.7%)	1,415
B1	1,556 (63.5%)	430 (17.6%)	463 (18.9%)	2,449
B2	2,410 (86.6%)	250 (9.0%)	122 (4.4%)	2,782
全レベル	5,122 (65.6%)	1,108 (14.2%)	1,580 (20.2%)	7,810



表 8

CEFR-J Wordlist A1 レベル収録項目の英和コロケーション辞典における主要な品詞別収録数

品詞	0	1	2	合計
名詞	149	117	365	631
形容詞	35	32	81	148
動詞	23	29	82	134

続いて、特に基本的で重要な語彙である A1 レベルの語のコロケーション辞典における見出し語としての収録状況を、品詞別に見てみる。A1 レベルの名詞・形容詞・動詞の項目が、何点の英和コロケーション辞典で見出し語として収録されているかをまとめたのが表 8 である。

A1 レベルの名詞では、英和コロケーション辞典 2 点の両方で見出し語として収録されている項目は 6 割弱である一方、およそ 4 分の 1 の項目はいずれの英和コロケーション辞典にも収録されていない。以下、見出し語として収録する英和コロケーション辞典がない項目を詳細に見ることで、学習者の観点で十分な情報が英和コロケーション辞典で提供されているかということを検討していく。

### 3.2.2. 名詞

はじめに、A1 レベルの名詞で英和コロケーション辞典での収録が全くない項目を見る。この条件に合致する項目は 149 項目あり、次に挙げるのがその全てである。

airplane, apple, April, apron, August, aunt, banana, baseball, basketball, bat, bean, bear, bee, bike, biscuit, bookstore, bucket, burger, butterfly, bye, cafe, candy, cap, cartoon, CD player, classmate, classroom, climb, coach, coke, cook, cookie, cop, corn, couch, cow, dad, daddy, dancing, December, dig, dining room, drum, fairy, February, feed, fly, foreigner, Friday, frog, ghost, glasses, grammar, grandfather, grandma, grandmother, grandpa, grandparent, grape, guitar, haircut, hamburger, hello, hometown, hurry, ice

cream, interviewer, January, jeans, jet, jewelry, juice, July, June, kite, last name, lily, lion, living room, math, May, Miss, mobile, mobile phone, mom, mommy, Monday, monkey, mouse, Mr, Mrs, mum, nationality, notebook, November, October, olympic, opera, pair, piano, pig, pizza, poster, prince, princess, rabbit, rat, reader, reporter, ribbon, rice, rose, ruler, sailor, salad, sandwich, Saturday, saw, September, shake, sir, smith, soccer, sofa, spy, surf, swim, swimming, swimming pool, temple, tennis, throw, Thursday, tiger, towel, T-shirt, Tuesday, turkey, TV, uncle, underline, vase, volleyball, waiter, waitress, wake, Wednesday, yogurt, zoo airplane<sup>8)</sup>, baseball, bike<sup>9)</sup>, cafe, cap, haircut, jeans, math, rice など、日本人英語学習者が日常的に使用したいと思い、コロケーション辞典での情報提供が有用であろうと考えられる項目が少なくない<sup>10)</sup>。

このうち、英英コロケーション辞典 2 点以上で収録されているものは、次の 43 項目である。

apple, banana, baseball, basketball, bee, bike, candy, cap, cartoon, climb, coach, cook, cow, fly, frog, ghost, glasses, grammar, grandparent, grape, haircut, hurry, ice cream, jeans, jet, jewelry, juice, lion, mouse, nationality, opera, piano, poster, reader, reporter, rice, salad, sandwich, soccer, spy, temple, tennis, towel

これらの語は、英英コロケーション辞典は学習者にとって重要だと考えているが英和コロケーション辞典では扱われていない語である。食べ物、動物、スポーツ、日常生活語彙などの基本語が多く挙がっていて、英和コロケーション辞典が扱っていれば日本人英語学習者にとって有用と思われる語が多い。

### 3.2.3. 形容詞

続いて形容詞に目を向ける。A1 レベルの形容詞で英和コロケーション辞典での収録が全くない

のは次の 35 項目である。

all right, broken, cloudy, cute, dear, due, elementary, everyday, favorite, first, foggy, following, foreign, front, gold, great, handsome, heavy, key, lazy, left, living, merry, middle, off, only, orange, own, rainy, second, snowy, social, strict, sunny, super

このうち、英英コロケーション辞典 2 点以上で収録されているものは、次の 10 項目である。

broken, cloudy, foreign, handsome, heavy, key, lazy, social, strict, sunny

3.1.3 での分析と同様に、上に挙がっている形容詞に関しては、基本語で日常的に使うものが多いが、コロケーションの情報が必要かという観点で見ると、あまり該当しないと言えそうである。

#### 3.2.4. 動詞

次に動詞に目を向ける。A1 レベルの動詞で英和コロケーション辞典での収録が全くないのは次の 23 項目である。

become, build, carry, catch, celebrate, collect, color, come, dance, get, give, greet, keep, let, make, paint, phone, ride, ring, save, set, take, wash

このうち、英英コロケーション辞典 2 点以上で収録されているものは、次の 7 項目である。

greet, keep, ride, save, set, take, wash

3.1.4 での分析と同様に、基本的で日常的に使う語が多いが、特定のコロケーションと結びつくことが多いというよりは、具体的な意味内容を持つ様々な様態の副詞と結びつく可能性があるものが多く、必ずしもコロケーション辞典で扱う必要性が高いとは言えない項目がほとんどである。

#### 3.2.5. まとめ

英和コロケーション辞典 2 点のいずれにも収録されていない項目を、品詞別に具体的に検討した結果、既存の英和コロケーション辞典は、特に名詞に関して、基本語の扱いに改善の余地が大きいと言えそうである。

## 4. 結論と今後の課題

本研究により、学習者向け英英コロケーション辞典のみならず、日本人英語学習者向けに作られた英和コロケーション辞典であっても、日本人英語学習者の必要とする情報を確実に提供できているとは言いがたいということが明らかになった。特にコロケーション辞典を引く際に最も頻度が高いと思われる名詞の扱いが不十分であり、改善の余地は大きい。

本研究には、下記のようにまだ課題が多く残されているが、英語教育においてコロケーションの重要性が広く認識されるようになってきている現在の状況において、既存のコロケーション辞典が学習者のニーズに的確に応えられるものであるかを検討した点で、一定の意義が見出せる。また、コロケーション辞典の見出し語を網羅的に比較調査した研究は、筆者の知る範囲では国内外で他に見当たらず、本研究は英語教育の観点のみならず、辞書学の観点でも一定の意義のある研究であると考えられる。

本研究ではあくまで見出し語レベルでの分析しかしていないが、コロケーション辞典の有用性をより的確に調査するためには、実際に各項目内で挙げられている連語構成語の分析までを行う必要がある。また、日本人英語学習者にとっての有用性という観点では、英英と日本人が引きやすい英和の両タイプのコロケーション辞典の見出し語を比較分析し、英和コロケーション辞典の見出し語の特徴をさらに詳細に明らかにすることで、さらなる改善の方向性を明らかにする必要がある。他にも、日本人の中高生が学校教育で平均的に学ぶ語彙や、日本人が発信したいと思う概念に対するコロケーション辞典での扱いを分析することが、今後必要である。

#### 注釈

1) 月名の March もコロケーション辞典での収録が全くないが、「行進 (曲)」の意味の march は 5 点全てで収録されている。本研究では大文字・小文字や同品詞の同音異義語の区別はしていないため、データ上では、March はコロケーション辞典に収録されているという扱いになっている。

- 2) Sunday は『プログレ』のみが収録している。
- 3) ただし OCD2 の電子版では April の見出しはなく、他の項目も空見出しのみで、書籍版にはある day・month への参照がない（おそらく編集上の誤りに起因するものと思われる）。
- 4) grandmother の収録は OCD2 での併記を除いては他になく、grandparent は OCD2 と LCD（電子版のみ）の 2 点に収録されている。
- 5) 通常 the Olympics または the Olympic Games の形で用いるが、本稿では、CEFR-J Wordlist に収録されているそのままの形で記載した。
- 6) 大辞典である『新編 英和活用大辞典』には Olympics の項目がある。
- 7) 2 点以上の英英コロケーション辞典が見出し語として収録する項目語は、A1 が 737 項目、A2 が 791 項目、B1 が 1,241 項目、B2 が 946 項目であり、B1 レベルの語が最も多いという点は英和コロケーション辞典の収録状況と同じであるが、B2 レベルの語の収録数が多い点に、英和コロケーション辞典とは異なる特徴が見出せる。
- 8) 『オックスフォード』では aircraft は収録されている。
- 9) 『オックスフォード』でも『プログレ』でも、bicycle は収録されている。
- 10) リストには glasses も含まれるが、『プログレ』は glass の項目で「眼鏡」の意味の glasses も扱っている。

#### 引用文献

- Chen, Y.-H., & Baker, P. (2010). Lexical bundles in L1 and L2 academic writing. *Language Learning & Technology*, 14(2), 30-49.
- Council of Europe. (2001). *Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Ellis, N. C. (2003). Constructions, chunking, and connectionism: The emergence of second language structure. In C. J. Doughty, & M. H. Long (Eds.), *The handbook of second language acquisition* (pp. 63-103). Oxford: Blackwell.
- Fontenelle, T. (1998). Discovering significant lexical functions in dictionary entries. In A. P. Cowie (Ed.), *Phraseology: Theory, analysis and applications* (pp. 189-207). Oxford: Clarendon Press.
- Granger, S. (1998). Prefabricated patterns in advanced EFL writing: Collocations and formulae. In A. P. Cowie (Ed.), *Phraseology: Theory, analysis and applications* (pp. 145-160). Oxford: Clarendon Press.
- 堀正広 (2009) 『英語コロケーション研究入門』東京: 研究社.
- Howarth, P. (1998). The phraseology of learners' aca-

demic writing. In A. P. Cowie (Ed.), *Phraseology: Theory, analysis and applications* (pp. 161-186). Oxford: Clarendon Press.

川村晶彦・石井康毅 (2013) 「コミュニケーション能力育成のための語彙指導—ポライトネスとコロケーションの観点から」『社会イノベーション研究』, 8(2), 成城大学社会イノベーション学部, 37-68.

文部科学省 (2017) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 Retrieved from [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387018\\_10\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1387018_10_1.pdf)

文部科学省 (2018) 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 Retrieved from [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407073\\_09.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407073_09.pdf)

文部科学省 外国語能力の向上に関する検討会 (2011) 「国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策～英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて～」 Retrieved from [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401_1.pdf)

Nesselhauf, N. (2005). *Collocations in a learner corpus*. Amsterdam: John Benjamins.

東京外国語大学投野由紀夫研究室 (2016) 『CEFR-J Wordlist Version 1.3』 Retrieved from <http://www.cefr-j.org/download.html>

投野由紀夫 (編) (2013) 『CAN-DO リスト作成・活用 新しい英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』東京: 大修館書店.

#### [辞書]

市川繁治郎・Boyd, S.・Dutcher, D.・沢村灌・原公章・Snowden, P.・Skrzypczak, E. (編) (1995) 『新編 英和活用大辞典』東京: 研究社.

Mayor, M. (Editorial Director), Fox, C. (Managing Ed.), & Combley, R. (Senior Ed.). (2013). *Longman collocations dictionary and thesaurus*. Harlow: Pearson Education.

McIntosh, C. (Chief Ed.). (2009). *Oxford collocations dictionary for students of English* (2nd ed.). Oxford: Oxford University Press.

Rundell, M. (Ed.-in-chief), & Fox, G. (Associate Ed.). (2010). *Macmillan collocations dictionary*. Oxford: Macmillan Education.

塚本倫久 (2013) 『プログレッシブ 英語コロケーション辞典』東京: 小学館.

八木克正 (監修), 樋口昌幸・住吉誠 (編) (2015) 『小学館オックスフォード 英語コロケーション辞典』東京: 小学館.

#### 謝辞

本研究は、平成 28-29 年度成城大学特別研究助成「コロケーション辞典の見出し語分析」と、筆者が研究分担者の一人である JSPS 科研費基盤研究 (B) 「大規模コーパスに基づく発信型和英連語辞書の構築に向けて」(課題番号: 18H00693, 代表: 内田諭) の助成を受けている。ここに記して謝意を表する。